

激動の幕末・明治維新史料

第17回講義 明治維新と文明開化（原田敬一先生）

2022年11月15日

今回からは原田先生の講義である。中村先生と違ってプロジェクターや白板は使わず「第20回 明治維新と文明開化」のレジュメに従っての講義でありました。講義の内容は、次の項目についてそれぞれの説明がありました。

1. 新奇の出来事

○1868（明治元）年の時点に立つと

- ・幕府崩壊後を生き抜く・文明開化を生きる・新奇＝モダンを受け入れる
- ・政治、経済は理解しやすかった・武家の時代は暗黒、神の国、天皇の国であった

○神仏分離令

- ・仏教優位の神仏習合からからの離脱命令が行われた

○学制改革

- ・フランスの国民教育をモデルに様々な制度が布告された

○徴兵告諭 1872

- ・農工商も兵士になる義務がある

○天皇と皇后

- ・江戸を東京とする・天長節と地久節の布告・一世一元の制

○啓蒙思想

- ・福沢諭吉「学問のすすめ」の嚆矢

2. 鉄道と通信

○ペリーが持ってきた鉄道と電信

- ・知識としては知っていたが実物を見た驚き

○鉄道：大隈重信の推し

- ・日本の狭軌は植民地仕様ではなく経済的負担からの選択
- ・最初に新橋－横浜、大阪－神戸が開通したのは、港と都心を結ぶため

○電信：大北電信会社（GNTC）

- ・上海－長崎、長崎－ウラジオストックの通信回線の序に日本の陸上電信も、と・・・
- ・その後、東京－横浜、東京－長崎、大都市間、全国と開通していった

○鉄道と通信の歴史から見えるもの＝居留地の重み・要求

- ・貿易・情報、上水道設置要求

○地方のいびつな発展：廃藩置県

- ・旧城下町の困難、産業革命により太平洋側の発展、日本海側の停滞「裏日本」

○「御雇」の時代：総数9181人

3. 「文明」の魅力と批判

○科学は技術のための補助学、近代化には素早く成功したが底が浅い

○「丁丑公論・瘦我慢の説」公刊

- ・西郷隆盛の西南戦争を批判している

○明治天皇の不満

- ・「大婚二十五年祝典」ドイツの宮廷茶菓の儀を移すも銀婚式とは称せず

○夏目漱石の不満・不安：現代日本の開化

- ・皮相上滑りの開化であり一等国になったなどと考えず内発的に変化すべき
- ・日本人の眼はより大きくなるべきである
- ・西洋からの吸収を急いでいるが、まだ真に目覚めてはいない
- ・昔は御上の御威光なら何でも出来た世の中なり〔抹消〕
- ・今は御上の御威光でも出来ぬことは出来ぬ世の中なり〔抹消〕
- ・次には御上の御威光だから出来ぬと云う時代が来るべし。〔抹消〕

○道は一つではなかった、悩みつつ、考えつつ、進んでいくのが理想。

道は一つで、悩まず、考えず、進んでいったのが・・・



原田先生の講義の様子